

日 ASEAN 科学技術連携を担うコーディネーター人材養成を目指した KURA の取組について (その1)

京都大学学術研究支援室(KURA) 国際グループ 園部太郎 URA、斎藤知里 URA

京都大学学術研究支援室(KURA)では、2014 年からタイ・バンコクに設置した全学海外拠点である京都大学 ASEAN 拠点へ URA を駐在させ、日本と ASEAN の科学技術連携による多様な国際共同研究プロジェクトの支援に取り組んできました。KURA の URA が ASEAN 地域の現場で、本学の研究者や日本の他大学・政府関係機関のカウンターパートとなる ASEAN 地域の研究者や政策立案に係る実務者等と対話を進めていく中で、今後の日 ASEAN の関係を一層強化し、科学技術協力を発展させていくためにはイコールパートナーシップの原則に基づいて互恵的な国際共同研究をコーディネーターする人材の養成が不可欠であると考えてきました。

そのような中、2018 年に、URA の世界大会である INORMS 2020 (International Network of Research Management Society)が 2020 年 5 月にアジアで初めて広島で開催されることが決定し、KURA の URA が筑波大学、長崎大学、広島大学の URA と協力してアジアからの参加者を戦略的に集客するプロモーションチームを牽引する事となりました。そこで、京都大学 ASEAN 拠点運営を担当してきた園部 URA が、現地駐在の地の利と、これまでに培ってきた ASEAN 地域とのネットワークを活かして、現地で開催される日 ASEAN 科学技術協力に係る様々な会議や研究集会、シンポジウム等へ参加して、会場内で参加者へ声をかけて日 ASEAN の科学技術コーディネーター人材養成の現状や課題等について意見交換を行い、一人ずつ着実に双方の状況について共通認識を深めてきました。特に、ASEAN Foundation が、ASEAN10 カ国の大学研究機関に所属する優秀な若手・中堅の研究者を対象に科学技術政策と科学技術イノベーション推進を担う将来のリーダーを養成する ASEAN Science and Technology Fellowship についての情報を得て、日本の機関としては一早く Executive Director や Fellowship 事業担当者との信頼を構築し、URA システムや ASEAN S&T Fellow の取組について相互理解を深めてきました。

2019 年 9 月の第 5 回 RA 協議会の国際専門委員会にて、INORMS2020 の実行委員長である広島大学 URA と斎藤 URA が連携して、ASEAN Foundation から Fellowship 事業担当者等を講師として招き「アジアの胎動:Research Management and Administration」と題したセッションで、アジア地域での URA 相当職の人材育成や連携の可能性について活発な議論を行い

ました。ここまで得られた現状認識や課題に基づいて、2019年の秋から冬にかけて KURA では「ASEAN 地域の STI コーディネート人材育成状況に関する自己点検」と題した調査を ASEAN Foundation の助言と協力を得て設計してオンラインで実施しました。アンケートは、KURA の URA が蓄積してきた ASEAN 域内でのネットワークを通じて、ASEAN 事務局、ASEAN University Network (AUN)、ASEAN Foundation を介して広く調査を行いました。その結果、ASEAN10 カ国、50 機関以上から約 60 の回答を得る事が出来ました(別紙)。このアンケート調査結果に基づいて共通の関心事項や課題を整理して、日 ASEAN 双方の成功事例等を共有し人材育成の連携について議論するワークショップを INORMS2020 の一環として開催する計画としておりました。しかし、2020年2月に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、INORMS2020 の開催が困難となり、来年に開催が延期となりました。

そのようなコロナ禍においても、学術・産業・政策等の多方面から日 ASEAN の科学技術連携の期待は高く、それらの取組を支える科学技術コーディネート人材の養成は喫緊の課題であることから、KURA の発案に拠り、ASEAN Foundation、ASEAN 事務局、日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点(JASTIP)が共催して、2021年5月に延期された INORMS 2021 に向けて、2020年9月から「**Science, Technology and Innovation Coordinators in Japan and ASEAN towards Grand Challenges**」と題するオンラインの勉強会シリーズを毎月開催することとなりました。本企画は、ASEAN 事務局の理解と協力により、正式に ASEAN 科学技術協力委員会の承認を得て実施する事が可能となりました。

2020年8月26日(水)には、勉強会シリーズのキックオフとして、日本と ASEAN の研究支援者等が集まったオンラインセミナー「Science, Technology and Innovation Coordinators in Japan and ASEAN towards Grand Challenges」を開催しました。これは、世界の関連動向や KURA 国際グループが実施したアンケート調査結果を発表することで、国を越えたネットワークづくりに活かし、コロナ禍において研究力強化を図ろうという企画です。当日は ASEAN 全 10 か国や日本などの関連省庁・大学・研究機関の幹部を含む約 80 名の参加があり、活発な議論が行われました。事後に行ったアンケート調査においても、回答者の 9 割以上が所属組織や ASEAN 域内の STI 関連組織においては、URA システムや科学技術コーディネート機能を強化する必要があり、この人材養成の分野で日 ASEAN の連携が非常に重要であるというフィードバックを得ることができました。

今後、さらに研究支援人材の育成に対する認識を高め、引き続き個別の好事例や課題について話し合う場を設ける予定です。

アンケート結果「ASEAN 域の STI コーディネート人材育成状況に関する自己点検」

調査実施者：京都大学学術研究支援室国際グループ 齋藤知里 URA, 園部太郎 URA

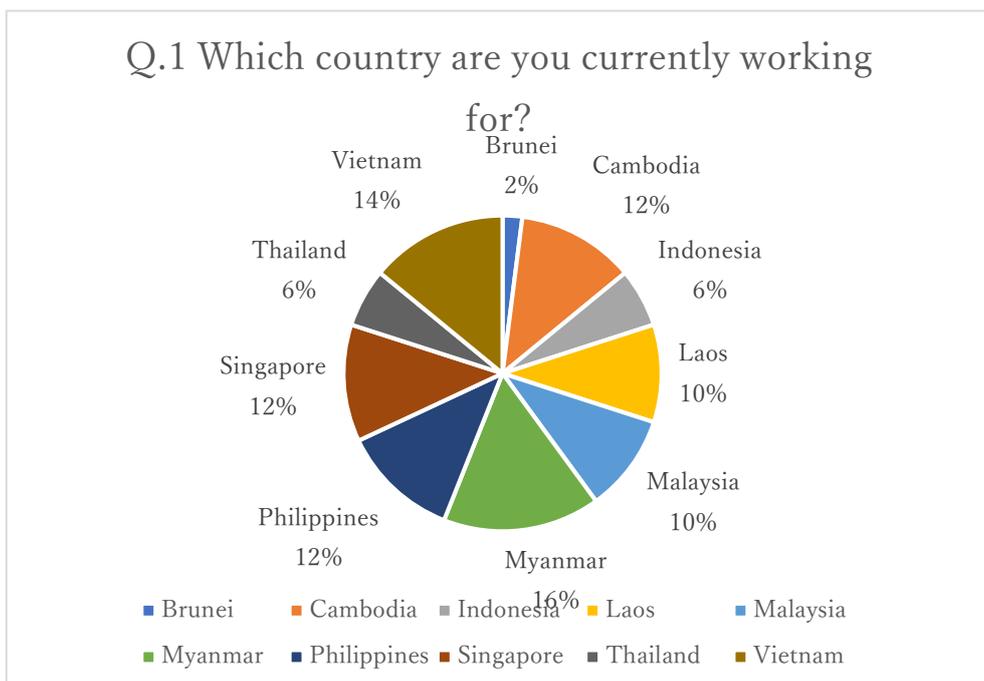
協力：ASEAN Foundation, ASEAN University Network (AUN)事務局

「ASEAN 域の STI コーディネート人材育成状況に関する自己点検」と題した調査を、京都大学が ASEAN ファンデーションの助言と協力を経てオンラインで実施し、2020年2月、全10か国より60件の回答を得ている。本調査では、ASEAN 域の STI コーディネート人材が現在働いている国、職位や役割、自身や同業者の知識やスキルについて問うている。この結果を元に、各自に合った人材育成に資することを目的とし、今後コーディネート人材を集めたワークショップにて好事例紹介や議論を行いたい。

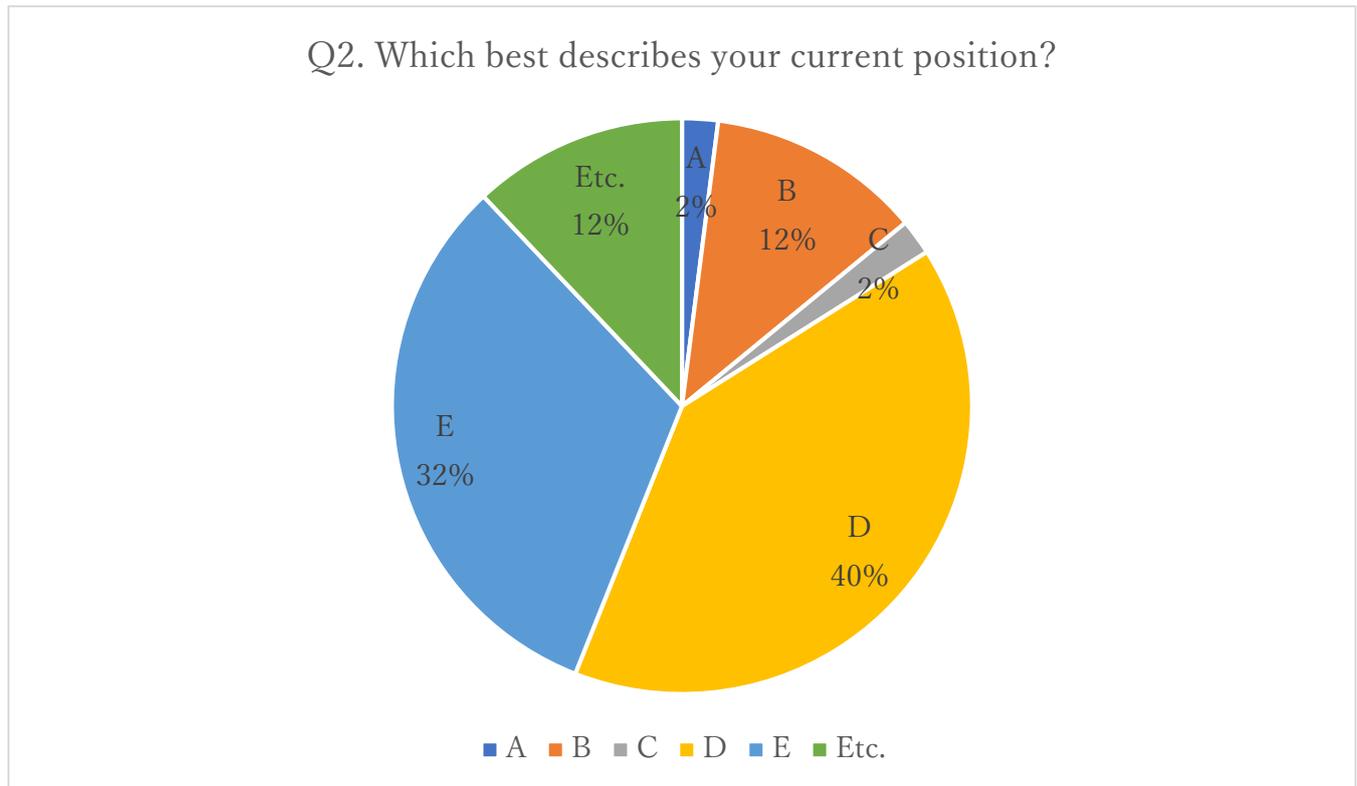
<予備調査の結果要点> (暫定)

Q.2(あなたの現在の肩書に最も近いものを選んでください。), Q.3 (現在あなたが有していると思われる知識やスキルの程度について教えてください)の結果から、外国語で交渉する能力、研究倫理や会計規程、備品管理、申請書レビュー、研究費公募情報、各国の科学技術政策動向、産学連携、広報、チームや安全管理など、幅広い内容のコーディネート業務は「研究者」が実施しているという実態が分かった。一方で、Q4. (あなたの所属機関にて、学術活動を発展させるための若手専門職 (30~50代) は充分いますか?), Q5.(あなたの所属機関で研究推進をより良くするために、以下の知識とスキルは、どの程度、重要だと思いますか?), Q6. (以下の項目のうち、あなたの所属機関の全般的な知識とスキルの程度を教えてください。)の結果から、研究力を向上するために上記のスキルを組織が備える事が重要であるという認識はあるが、それを継続的に支える若手職員の養成が不足していること、組織レベルでは十分に知識とスキルが足りていない、というギャップがある。したがって、この高度専門職を育成することが ASEAN の機関にとっても組織的な基盤強化に資するポイントであると言える。

Q1. あなたが今働いている国は何処ですか？



Q2. あなたの現在の肩書に最も近いものを選んでください。



A: 国際共同研究を補助・促進するため、外国語に堪能な技術員もしくは事務職員

B: 国際共同研究のプレアワード・ポストアワード（申請書や契約、報告書準備等）を行う研究支援者もしくはマネージャー

C: 戦略的に日 ASEAN の学術界、省庁と民間の異なるセクターを繋ぐ専門家

D: 海外での研究・教育・実務に豊富な経験を有する教授や研究者

E: 大学や研究機関にて学術研究や教育活動を行う研究者

その他の回答例

Etc_1. 要望に応じて応用研究を行うシニアレベルの研究者かつ国際研究プロジェクトのマネージャー

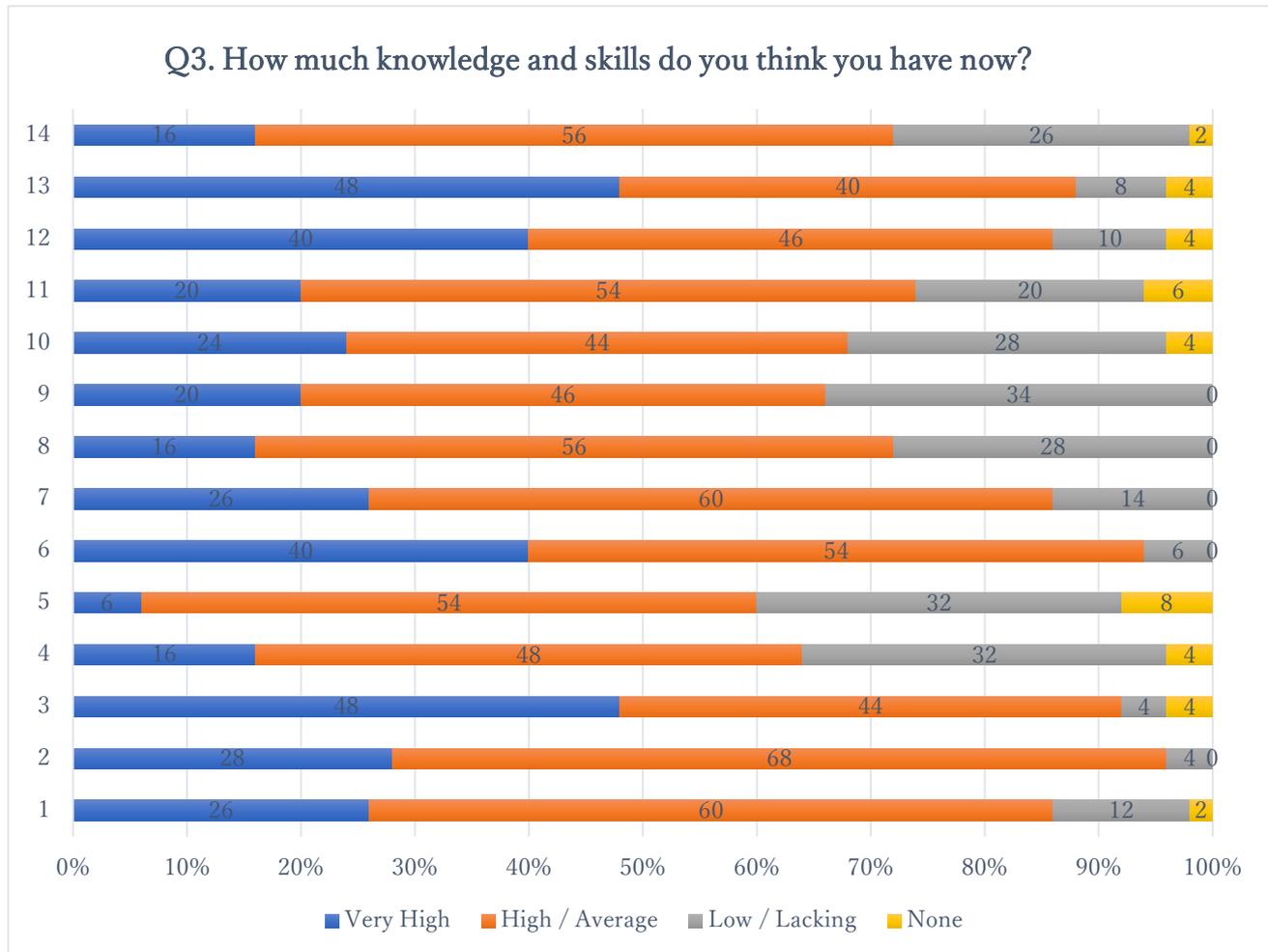
Etc_2. 研究政策と戦略のマネージャー

Etc_3. 地元および国際共同に特化した研究者、現在は知的財産の申請と技術移転を専門としている（ライセンス、イベント運営、広報媒体の作成、共同研究申請など）

Etc_4. Research administrator or research manager that operates the Pre-Award and/or Post-Award for research project (preparing proposals, contracts and reports)

Etc_5. 講師で若手研究者

Q3. 現在あなたが有していると思われる知識やスキルの程度について教えてください。



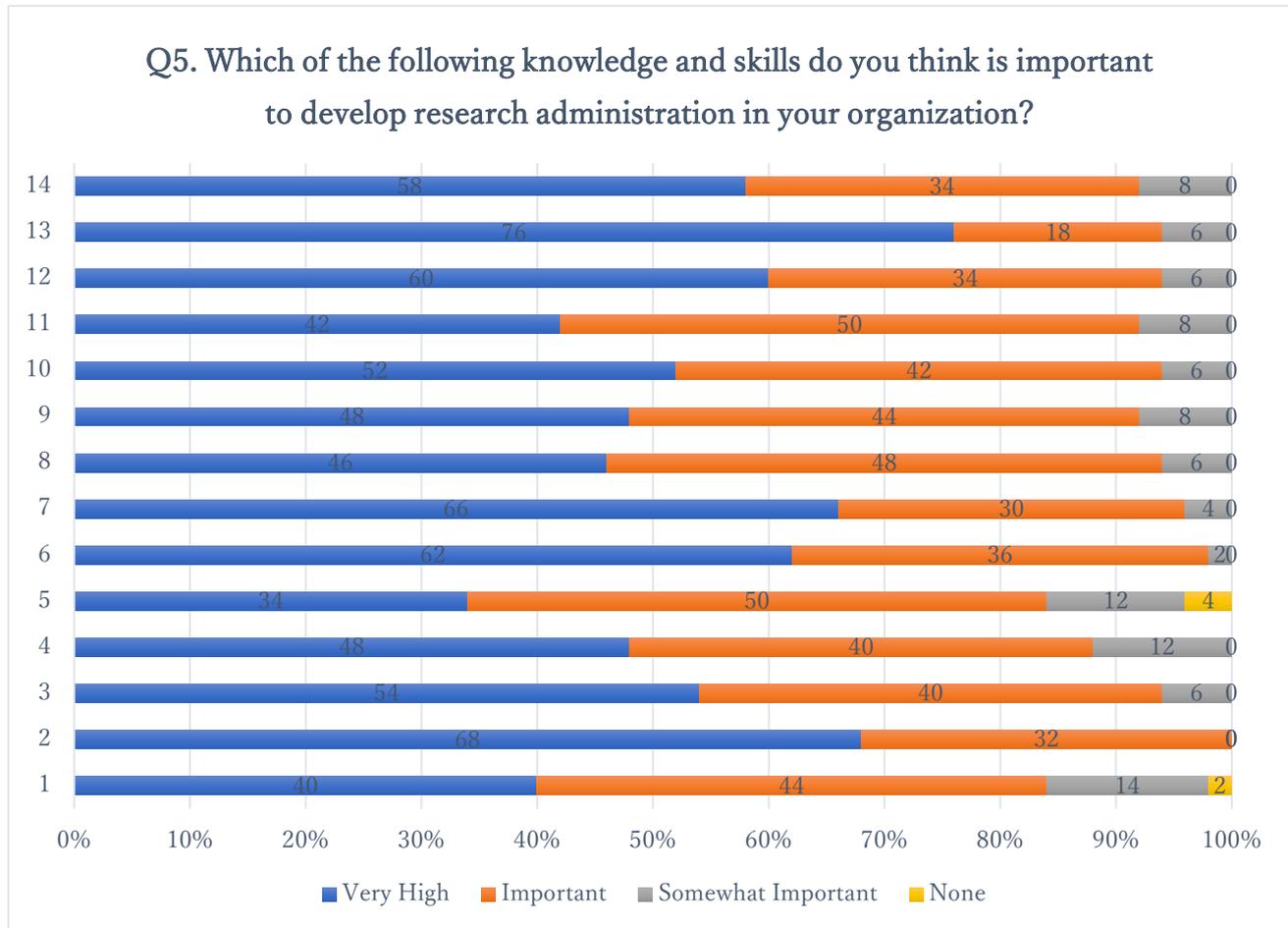
- [1. 外国語能力と異文化理解]
- [2. 本部や部局と密接に働く対人・折衝能力]
- [3. 研究倫理／コンプライアンス]
- [4. 会計や調達に関する様々な規定遵守]
- [5. 備品、毒物と劇物の取り扱い、MTA の知識]
- [6. べ切までに申請書や報告書をブラッシュアップし提出する実務能力]
- [7. 研究費システムやプログラムに関する知識]
- [8. 科学技術イノベーション政策に関する知識]
- [9. 産学連携、異なるセクターに対する認識、特許や知財に関する扱い]
- [10. PR やアウトリーチ活動]
- [11. 情報探索、データリテラシーと分析力]
- [12. 新規研究プロジェクトを始める統率力]
- [13. 研究プロジェクトやチームをまとめ管理する能力]
- [14. 予期せぬ問題を解決するリスク・安全管理]

Q4. あなたの所属機関にて、学術活動を発展させるための若手専門職（30～50代）は充分いますか？



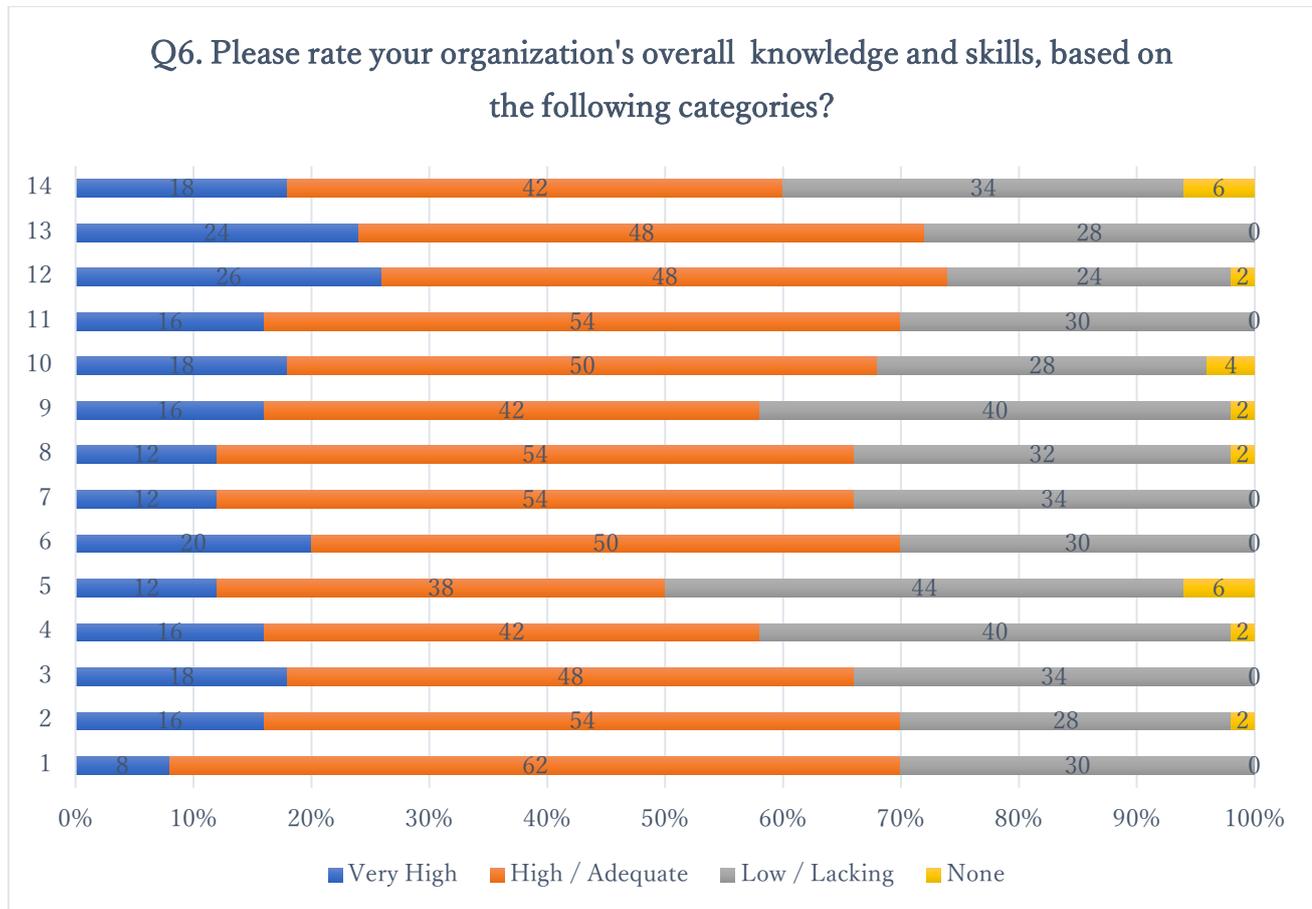
- 1: 国際共同研究を補助・促進するため、外国語に堪能な技術員もしくは事務職員
- 2: 国際共同研究のプレアワード・ポストアワード（申請書や契約、報告書準備等）を行う研究支援者もしくはマネージャー
- 3: 戦略的に日 ASEAN の学術界、省庁と民間の異なるセクターを繋ぐ専門家
- 4: 海外での研究・教育・実務に豊富な経験を有する教授や研究者

Q5.あなたの所属機関で研究推進をより良くするために、以下の知識とスキルは、どの程度、重要だと思いますか？



- [1. 外国語能力と異文化理解]
- [2. 本部や部局と密接に働く対人・折衝能力]
- [3. 研究倫理／コンプライアンス]
- [4. 会計や調達に関する様々な規定遵守]
- [5. 備品、毒物と劇物の取り扱い、MTAの知識]
- [6. べ切までに申請書や報告書をブラッシュアップし提出する実務能力]
- [7. 研究費システムやプログラムに関する知識]
- [8. 科学技術イノベーション政策に関する知識]
- [9. 産学連携、異なるセクターに対する認識、特許や知財に関する扱い]
- [10. PR やアウトリーチ活動]
- [11. 情報探索、データリテラシーと分析力]
- [12. 新規研究プロジェクトを始める統率力]
- [13. 研究プロジェクトやチームをまとめ管理する能力]
- [14. 予期せぬ問題を解決するリスク・安全管理]

Q6. 以下の項目のうち、あなたの所属機関の全般的な知識とスキルの程度を教えてください。



- [1. 外国語能力と異文化理解]
- [2. 本部や部局と密接に働く対人・折衝能力]
- [3. 研究倫理／コンプライアンス]
- [4. 会計や調達に関する様々な規定遵守]
- [5. 備品、毒物と劇物の取り扱い、MTA の知識]
- [6. べ切までに申請書や報告書をブラッシュアップし提出する実務能力]
- [7. 研究費システムやプログラムに関する知識]
- [8. 科学技術イノベーション政策に関する知識]
- [9. 産学連携、異なるセクターに対する認識、特許や知財に関する扱い]
- [10. PR やアウトリーチ活動]
- [11. 情報探索、データリテラシーと分析力]
- [12. 新規研究プロジェクトを始める統率力]
- [13. 研究プロジェクトやチームをまとめ管理する能力]
- [14. 予期せぬ問題を解決するリスク・安全管理]

Q7. あなた自身もしくは所属機関での好事例を具体的に記述してください。

個人の能力やスキル開発

- 外国語や文化を理解するための海外経験
- 大学本部や部局と密接に働く対人能力と交渉力
- 企業やスポンサーとのコミュニケーション能力
- プロジェクトやチームを管理する能力
- エビデンスに基づいた政策づくり

組織レベルでの好事例

- 研究支援に特化したマネージャーを雇用し、そのスキルを若手に委譲し、STI コーディネート人材のチームや本部の組織を設立
- きちんと知識が伝えられ、計画が進んでいるかの学内指導
- 特許や知財の担当部署との密接な協働
- 組織やジェンダーのバランスを考慮し、必要なスキルを有したメンバー集め
- 研究機関以外の他のセクターの代表者も集まる研究倫理オフィスの設立
- 他部局の研究者が交流できる場の常置

Q8. STI コーディネート人材としての最も大きな課題は？

- 学内で STI を推進する優秀で志の高い人材
- 異なるステークホルダーとの交渉（例えば大学幹部、部局、研究者、ファンディングエージェンシー、省庁や政策策定者）
- 時間、予算やリソースの配分。国際共同研究に特化した組織がないため、上長が個人に業務を割り振っている

Q9. 所属機関、国、ASEAN 域、国際的により良い STI コーディネートを行うためには？

（注）回答は個人から、組織、国、地域レベルの順に並べてある。

- 国、地域、国際会合にてトレーニングや共同研究に参加
- 多様な文化・社会・経済的観点から、目標と利益を理解すること**
- 技術、知識や経験を伝達するネットワークの形成**
- 規制緩和を行い様々なセクターとの協働や海外ファンドに参画
- 幹部が STI の重要性を理解すること
- 組織内に STI に関する案件を管轄する専門部署を設置すること
- 地域に共通する課題解決**
- ステークホルダーの整理
- ASEAN のためのファンディングエージェンシーや国際共同研究公募
- 政府の直下に STI を管轄する独立組織を設置（省庁の中や並列ではなく）